

## GOD WITH US

Part 12: THE APOCALYPSE

Message 2 – Revelation 4-11

Jesus' 2nd "Triumphal Entry"

### 神はわれらと共に

パート 12：アポカリユプシス（黙示録）

第2メッセージ－ヨハネの黙示録第4-11章

イエスの二度目の「勝利の入城」

### はじめに

黙示録第1章で、ヨハネは、栄光に輝く主が7つの燭台の間、小アジアの7つの教会に起こっていることをすべてご存知で、彼らの状態を評価し、メッセージを送られるのを見ました。今回の学びで主要な部分は、地上の出来事から天上の出来事へと変わり、ヨハネが天の王座のある空間を見、キリストの再臨に至る最終的な出来事の幻が与えられるところから始まります。第4章から第22章は、神の裁きと、地上に対する子羊の御怒り（黙6:17）を含む未来について扱っています。地上の人々が神の愛による恵み深い贈り物を拒否したことについて説明する時が来しました。

### 啓示の概要

過去	第1章	ヨハネが見たイエスの幻
現在	第2-3章	7つの教会への手紙
未来	第4-22章	天の王座の間 4-5章 7つの封印－7つのラッパ－7つの鉢 6-16章 大いなるバビロンの陥落 17-18章 キリストの再臨 19章 千年王国 20章 新天新地 21-22章

### 天の王座：4-5

ヨハネは天に連れて上げられ、賛美が捧げられる空間で王座に座っておられる父なる神を見ます。ヨハネが聞いた幻とみ言は、預言者イザヤが約800年前に見聞きしたみ言と非常に似ています（イザヤ書6:1-3）。この場面は、神が地を裁かれ、王であるイエスを地上の王座に据える準備をしておられる間、次の舞台を設定します。

**4:1** その後、わたしが見ていると、見よ、開いた門が天にあった。そして、さきにラッパのような声でわたしに呼びかけるのを聞いた初めの声が、「ここに上ってきなさい。そうした

ら、これから後に起るべきことを、見せてあげよう」と言った。4:2すると、たちまち、わたしは御霊に感じた。見よ、御座が天に設けられており、その御座にいますかたがあった。4:3その座にいますかたは、碧玉や赤めのうのように見え、また、御座のまわりには、緑玉のように見えるにじが現れていた。4:4また、御座のまわりには二十四の座があって、二十四人の長老が白い衣を身にまとい、頭に金の冠をかぶって、それらの座についていた。4:5御座からは、いなくとも、もろもろの声と、雷鳴とが、発していた。また、七つのともし火が、御座の前で燃えていた。これらは、神の七つの霊である。4:6御座の前は、水晶に似たガラスの海のようにであった。御座のそば近くそのまわりには、四つの生き物がいたが、その前にも後にも、一面に目がついていた。4:7第一の生き物はししのようにであり、第二の生き物は雄牛のようにであり、第三の生き物は人のような顔をしており、第四の生き物は飛ぶわしのようにであった。4:8この四つの生き物には、それぞれ六つの翼があり、その翼のまわりも内側も目で満ちていた。そして、昼も夜も、絶え間なくこう叫びつづけていた、「聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、全能者にして主なる神。昔いまし、今いまし、やがてきたるべき者」。

4:9これらの生き物が、御座にいまし、かつ、世々限りなく生きておられるかたに、栄光とほまれとを帰し、また、感謝をささげている時、4:10二十四人の長老は、御座にいますかたのみまえにひれ伏し、世々限りなく生きておられるかたを拝

み、彼らの冠を御座のまえに、投げ出して言った、4:11「われらの主なる神よ、あなたこそは、栄光とほまれと力とを受けるとにふさわしいかた。あなたは万物を造られました。御旨によって、万物は存在し、また造られたのであります」。

(ヨハネの黙示録4：1－11)

「24人の長老」は、黙示録の中の、決まって礼拝の場面で度々登場します(黙示録4:4, 10; 5:8; 11:16; 19:4)。贖われた神の民全体を象徴的していると考えることが可能です(旧約聖書から12人、新約聖書から12人)。しかし、より説得力のあるのは、地上の神殿で礼拝を監督する、ダビデが24組に分けた、旧約聖書の祭司たちであるという見解です(1歴代誌24:4, 5; 25:9-31)。地上の聖域で起こったことは、天における現実の影でした(ヘブル人8:4, 5; 9:23)。御霊(神の7つの御霊)は、神の働きのために待機しておられます。御霊は、世の初め、天地創造の時に創造主と共におられ(創世記1:2)、今、天地の再創造の初めにもまた、主と共におられます。4つの生き物は、礼拝の捧げものの天使のような存在です(イザヤ6:1-3)。彼らは、神の聖さを絶え間なく賛美しています。これは、罪に対する神の裁きが、神の聖さと義から生じるため、黙示録の背景に大変相応しいです。

ヨハネは、父なる神が7つの封印の巻物を持っておられるのを見ます。旧約聖書の預言者たちもまた、巻物を食べるように言われたことがありました。これは神のみ言を預言者に

伝えたことを象徴しています。（参照：黙示録 10:8-11、ヨハネが巻物を食べています。）

ヨハネは、7つの封印で閉じられていた巻物を開くことができないことを知って悲しんでいます。「ユダの獅子」（つまり、メシア）の他には、誰も開けることができません。

ヨハネが「獅子」を見ようと振り返ると、「ほふられたとみえる小羊が立っている」のを見ました。子羊が巻物を受け取り、その中身を開封する準備をされているとき、とてつもない賛美が続きます。これは、キリストの再臨とその地上における君臨につながる出来事です。

5:1 わたしはまた、御座にいますかたの右の手に、巻物があるのを見た。その内側にも外側にも字が書いてあって、七つの封印で封じてあった。5:2 また、ひとりの強い御使が、大声で、「その巻物を開き、封印をとくのふさわしい者は、だれか」と呼ばわっているのを見た。5:3 しかし、天にも地にも地の下にも、この巻物を開いて、それを見ることのできる者は、ひとりもいなかった。5:4 巻物を開いてそれを見るのにふさわしい者が見当らないので、わたしは激しく泣いていた。5:5 すると、長老のひとりがわたしに言った、「泣くな。見よ、ユダ族のしし、ダビデの若枝であるかたが、勝利を得たので、その巻物を開き七つの封印を解くことができる」。5:6 わたしはまた、御座と四つの生き物との間、長老たちの間に、ほふられたとみえる小羊が立っているのを見た。それに

七つの角と七つの目とがあった。これらの目は、全世界につかわされた、神の七つの霊である。5:7 小羊は進み出て、御座にいますかたの右の手から、巻物を受けとった。5:8 巻物を受けとった時、四つの生き物と二十四人の長老とは、おのおの、立琴と、香の満ちている金の鉢とを手を持って、小羊の前にひれ伏した。この香は聖徒の祈りである。5:9 彼らは新しい歌を歌って言った、「あなたこそは、その巻物を受けとり、封印を解くにふさわしいかたであります。あなたはほふられ、その血によって、神のために、あらゆる部族、言語、民族、国民の中から人々をあがない、5:10 わたしたちの神のために、彼らを御国の民とし、祭司となさいました。彼らは地上を支配するに至るでしょう」。5:11 さらに見ていると、御座と生き物と長老たちとのまわりに、多くの御使たちの声がかかるのを聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍もあって、5:12 大声で叫んでいた、「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受け取るにふさわしい」。5:13 またわたしは、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、そして、それらの中にあるすべてのものの言う声を聞いた、「御座にいますかたと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように」。5:14 四つの生き物はアアメンと唱え、長老たちはひれ伏して礼拝した。

（ヨハネの黙示録 5：1－14）

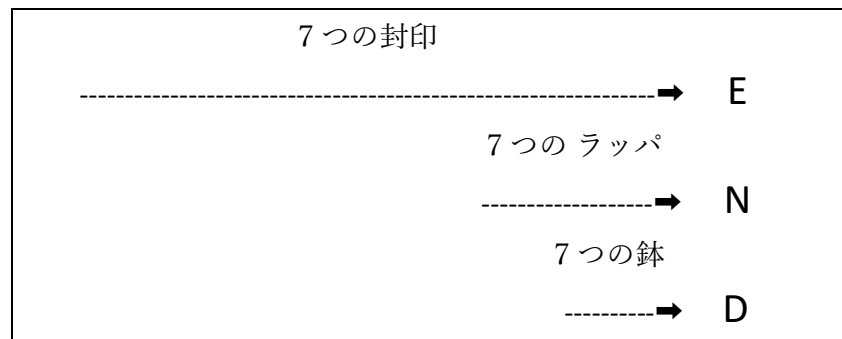
子羊が巻物を受け取ると、子なる神への賛美が始まり、爆発的に膨れ上がりました。多くの御使いたちが、4つの生き物と24人の長老たちが捧げる賛美に参加しました。その数は、幾万倍、千の幾千倍でした。創造の相続人である神の子が相続を引き取る準備を整えながら、天と地、地の下と海の中にあるすべての造られたもの、あらゆる被造物がこの賛美に参加しました。

なぜ、人類に対する神による最終的さばきを含むこの巻物を開くのに、子羊だけが相応しいのでしょうか。それは、唯一、イエス様だけが、すでに神の裁きをご自身の身に受けられたからです。さばきを受けられたことによって、この巻物を封印され、神が人類をさばかれる必要がないようにされたからです。ここで、被造物の多くが神による平和の提供を拒否したため、さばきの巻物を開かなければなりません。さばきが始まる時、それが「子羊の怒り」（黙示録6:16）と表現されているところが印象的です。

### 7つの封印：6:1-8:1

7つの封印のさばきの後に、7つのラッパの裁きが続く、さらに、7つの厳しい鉢のさばきが続きます。さばきを重ねるごとに、神のさばきの激しさが増していきます。第7の封印に、7つのラッパのさばきが含まれており、第7のラッパのさばきには、7つの鉢のさばきが含まれているようです。こ

のように、患難時代の終わりに近づくにつれて、地上で人類が経験する艱難の度合いが益々増していきます。



第1～第4の封印は、イエスが「すべてこれらは産みの苦しみの初めである。」と言われたものです（マタイ24:4-14）。

第6の封印は、主の日の始まりの、よく知られている預言的な印（空に見られる天変地異）を示しています。

### 第一の封印：白い馬：強力な征服の王

この白い馬に乗った人物は、終焉間際で起こる帝国主義と世界征服を表している可能性が高いです。歴史上、エジプト、アッシリア、バビロン、ペルシャ、ギリシア、ローマは、すべて世界を征服しようとしてきました。終焉の前に、全地球を一つの統一された支配下に収めようとする者が現れます。

6:1 小羊がその七つの封印の一つを解いた時、わたしが見ていると、四つの生き物の一つが、雷のような声で「きたれ」と呼ぶのを聞いた。6:2 そして見ていると、見よ、白い馬が出て

きた。そして、それに乗っている者は、弓を手に持っており、また冠を与えられて、勝利の上にもなお勝利を得ようとして出かけた。（黙示録 6：1，2）

### 第二の封印：赤い馬：世界戦争

統一された権威を強制しようとする最初の馬に乗った者の試みは、王国が互いに敵意を向けるようになり、国家主義的対立が起こり、平和が取り去られ、戦争が起こり、崩壊しました。イエスは、次のように言われました：24:7 民は民に、国は国に敵対して立ち上がるであろう。（マタイ 24：7）

6:3 小羊が第二の封印を解いた時、第二の生き物が「きたれ」と言うのを、わたしは聞いた。6:4 すると今度は、赤い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、人々が互に殺し合うようになるために、地上から平和を奪い取ることを許され、また、大きなつるぎを与えられた。（黙示録 6：3，4）

### 第三の封印：黒い馬：経済的混乱と飢饉

経済的混乱には、常に世界的な紛争が伴います。ここで説明されている、飢饉のときの高騰した穀物の価格は、平時の10倍でした。最終的に、特に最も弱い立場にある人々を困窮へと陥らせます。イエス様が言われた通り、「あちこちに、ききんが起り（マタイ 24:7,8）」ます。

6:5 また、第三の封印を解いた時、第三の生き物が「きたれ」と言うのを、わたしは聞いた。そこで見ていると、見よ、黒い馬が出てきた。そして、それに乗っている者は、はかりを手に持っていた。6:6 すると、わたしは四つの生き物の間から出て来ると思われる声が、こう言うのを聞いた、「小麦一ますは一デナリ。大麦三ますも一デナリ。オリブ油とぶどう酒とを、そこなうな」。（黙示録 6：5，6）

### 第4の封印：青ざめた馬：地上の人の1/4の死

命の損失は恐ろしいです。4番目の封印がまだ「誕生の苦しみの始まり」の一部であり、次の反キリストが来る（マタイ 24:15ff）、最初の4つの封印で説明されているこの最後の大規模な世界戦争と大量の命の損失こそが、世界が救世主と癒し主を探す原動力となり、それを反キリストに誤って見いだしてしまう可能性があります（第5の封印である殉教は、この一連に当てはまります。）。

6:7 小羊が第四の封印を解いた時、第四の生き物が「きたれ」と言う声を、わたしは聞いた。6:8 ところで見ていると、見よ、青白い馬が出てきた。そして、それに乗っている者の名は「死」と言い、それに黄泉が従っていた。彼らには、地の四分の一を支配する権威、および、つるぎと、ききんと、死と、地の獣らとによって人を殺す権威とが、与えられた。（黙示録 6：7，8）

## 第5の封印:

### 殉教者、神による義のもたらしを大声で叫ぶ

イエスが言われました:「あなたがたは、わたしの名のゆえにすべての民に憎まれるであろう。(マタイ24:9)」この書の後半で登場する反キリストは、地上の神の民を迫害します(黙示録13:5-10)。

6:9 小羊が第五の封印を解いた時、神の言のゆえに、また、そのあかしを立てたために、殺された人々の靈魂が、祭壇の下にいるのを、わたしは見た。6:10 彼らは大声で叫んで言った、「聖なる、まことなる主よ。いつまであなたは、さばくことをなさらず、また地に住む者に対して、わたしたちの血の報復をなさらないのですか」。6:11 すると、彼らのひとりびとりに白い衣が与えられ、それから、「彼らと同じく殺されようとする僕仲間や兄弟たちの数が満ちるまで、もうしばらくの間、休んでいるように」と言い渡された。(黙示録6:9-11)

### 第6の封印:大きな恐怖を引き起こす宇宙の兆候

終末に伴う、これらの宇宙の兆候は、聖書でよく知られています(イザヤ書2:10, 19, 21; 13:10; エレミヤ4:29; ヨエル2:31; 3:15; ゼパニヤ1:14-18; マタイ24:29)。それらは、創造された秩序全体の大きな変化を示しています。ここでは、「御怒りの大いなる日が来た」ということです。子羊は、とても優しいので、「子羊の

怒り」について語るのは逆説的に見えますが、この子羊は裁きをもたらします。なぜなら、彼がすでに負った裁きは、多くの人に軽んじられ、拒絶されているからです。

6:12 小羊が第六の封印を解いた時、わたしが見ていると、大地震が起って、太陽は毛織の荒布のように黒くなり、月は全面、血のようになり、6:13 天の星は、いちじくのまだ青い実が大風に揺られて振り落とされるように、地に落ちた。6:14 天は巻物が巻かれるように消えていき、すべての山と島とはその場所から移されてしまった。6:15 地の王たち、高官、千卒長、富める者、勇者、奴隷、自由人らはみな、ほら穴や山の岩かげに、身をかくした。6:16 そして、山と岩とにむかって言った、「さあ、われわれをおおって、御座にいますかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。6:17 御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか」。(黙示録6:12-17)

### 幕あい: 保護の印が押された神の民

最後の第7の封印が解かれる前に、地上の神のしもべの群れが、来るべきものから守られるために印が押されます。押されるのは、イスラエルの12部族のユダヤ人であり、12部族それぞれから12,000人であるという点で特異性があります。4人の御使いは、印が押されるまで(さばきの)風を強く押さえるように指示されています。どのようなさばきが起ころうと

も、背後には神の支配があり、民に対する神の愛と配慮は決して尽きません。

7:1 この後、わたしは四人の御使が地の四すみに立っているのを見た。彼らは地の四方の風をひき止めて、地にも海にもすべての木にも、吹きつけないようにしていた。7:2 また、もうひとりの御使が、生ける神の印を持って、日の出る方から上って来るのを見た。彼は地と海とをそこなう権威を授かっている四人の御使にむかって、大声で叫んで言った、7:3 「わたしたちの神の僕らの額に、わたしたちが印をおしてしまうまでは、地と海と木とをそこなってはならない」。7:4 わたしは印をおされた者の数を聞いたが、イスラエルの子らのすべての部族のうち、印をおされた者は十四万四千人であった。

7:5 ユダの部族のうち、一万二千人が印をおされ、

ルベンの部族のうち、一万二千人、

ガドの部族のうち、一万二千人、

7:6 アセルの部族のうち、一万二千人、

ナフタリの部族のうち、一万二千人、

マナセの部族のうち、一万二千人、

7:7 シメオンの部族のうち、一万二千人、

レビの部族のうち、一万二千人、

イサカルの部族のうち、一万二千人、

7:8 ゼブルンの部族のうち、一万二千人、

ヨセフの部族のうち、一万二千人、

ベニヤミンの部族のうち、

一万二千人が印をおされた。（黙示録 7：1－8）

上記の箇所を象徴的に解釈する人は、144,000 を教会と考えるが、これは、極めて具体的な数字であることから、字義通り解釈することが最も自然です。さらに、144,000 人のユダヤ人の箇所のすぐ後に、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちからの非常に多くの群衆を扱う箇所が続くことから、上記の箇所の最も自然な解釈は、神は終わりの日に 144,000 人のユダヤ人の証人、つまりイエスをメシアとして信じるようになった証人であり、天にいる子羊に代わって地上で証ししているという解釈です。彼らの使命のために、非常に敵対的な世で、神のために立ち向かうとき、神は、特別な保護のために印を押してください。彼らは再び第 14 章 1-5 節に登場し、天の子羊と共にいます。

#### 幕あい: キリストの勝利の入城を待つ大勢の群衆

144,000 人の特別な証人から「勝利の入城」場面に移行します。ヤシの枝と賛美は、受難の週の初めに、イエス様がエルサレムに凱旋された場面を思い出させます。ここで、イエスは、苦しみを受ける救い主としてではなく、君臨される王として、また、ロバではなく、白い軍馬に乗って、人類の歴史に戻って来られるための準備をしておられます。初臨の時、イエス様は、十字架の死を通して、神と人との間に平和をも

たらされるために来られました。再臨のときは、イエスを拒絶したすべての人と戦争するために来られます（黙 19:11ff）。

ここで、これまでの6つの封印に記されている期間に関する重要な手がかりが与えられています。王座と子羊の御前でヨハネが見ている大群衆は、「彼らは大きな患難をとおってきた人たち（黙 7:14）」です。イエスは、オリーブ山の説教の中で、再臨の直前に地上に展開するこの大患難の時代について説明されました（マタイ 24:21）。

**7:9** その後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、部族、民族、国語のうちから、数えきれないほどの大ぜいの群衆が、白い衣を身にまとい、しゅろの枝を手に持って、御座と小羊との前に立ち、**7:10** 大声で叫んで言った、

「救は、御座にいますわれらの神と小羊からきたる」。

**7:11** 御使たちはみな、御座と長老たちと四つの生き物とのまわりに立っていたが、御座の前にひれ伏し、神を拝して言った、**7:12** 「アアメン、さんび、栄光、知恵、感謝、ほまれ、力、勢いが、世々限りなく、われらの神にあるように、アアメン」。**7:13** 長老たちのひとりが、わたしにむかって言った、「この白い衣を身にまとっている人々は、だれか。また、どこからきたのか」。**7:14** わたしは彼に答えた、「わたしの主よ、それはあなたのご存じです」。すると、彼はわたしに言った、「彼らは大きな患難をとおってきた人たちであって、その衣を小羊の血で洗い、それを白くしたのであ

る。**7:15** それだから彼らは、神の御座の前におり、昼も夜もその聖所で神に仕えているのである。御座にいますかたは、彼らの上に幕屋を張って共に住まわれるであろう。**7:16** 彼らは、もはや飢えることがなく、かわくこともない。太陽も炎暑も、彼らを侵すことはない。**7:17** 御座の正面にいます小羊は彼らの牧者となって、いのちの水の泉に導いて下さるであろう。また神は、彼らの目から涙をことごとくぬぐいって下さるであろう」。（黙示録 7：9－17）

この箇所不明瞭であるのは、この大群衆が大患難からどのようにして通ってきたのかということです。終わりの日に、神の民が地上に集まり、天国に連れて行かれることを私たちは知っています（マタイ 24:31; 1テサ 4:17）。これは、1テサロニケ 4章 17節のラテン語の「追いつく」の翻訳で用いられているラテン語の「rapio」から、頻繁に「携挙」と呼ばれています。ただし、現在の聖句には、歓喜に溢れる突然の救済ではなく、苦しみと苦難の語調が含まれています（参照：黙 7：16-18のより大きな、飢え、渇き、炎暑、涙の言及）。したがって、これらの人々は、キリストについての証し（黙示録全体で繰り返されるテーマ）の結果として、苦しみと死を経て大患難から抜け出したようです。

#### 第7の封印：間もなく鳴り響く7つのラッパ

それぞれが特定の出来事を展開してきた、これまでの6つの封印とは異なり、第7の封印は、7つのラッパが吹き鳴らさ



れた後に、7つの裁きの新しい一連を展開します。言い換えると、第7の封印には、7つのラッパの裁きが含まれていて、キリストの再臨が近づくにつれて、神のさばきの急激な上昇と強化が示されています。第7のラッパが鳴り始める前に、第7の封印は、祈りの場面をあらわします。神が地上の聖徒たちの祈りを受け取られ、甘い香のようにその王座へと立ち上るとき、天には静寂がありました。聖徒の祈りは、地上で徐々に展開されている神のさばき（地球上で徐々に展開されている神の裁きは、地球の住民の間で大災害を引き起こし、地上に残っている神の民に試練と苦しみをもたらしました。）に関係しているので、非常に重い設定です。彼らは、「**16:22** もし主を愛さない者があれば、のろわれよ。マラナ・タ（われらの主よ、きたりませ）。」というパウロの祈りの言葉のように、イエス様の迅速な再臨を祈っていたかもしれません（第一コリント 16:22）。

**8:1** 小羊が第七の封印を解いた時、半時間ばかり天に静けさがあった。**8:2** それからわたしは、神のみまえに立っている七人の御使を見た。そして、七つのラッパが彼らに与えられた。

**8:3** また、別の御使が出てきて、金の香炉を手を持って祭壇の前に立った。たくさんの香が彼に与えられていたが、これは、すべての聖徒の祈に加えて、御座の前の金の祭壇の上にささげるためのものであった。**8:4** 香の煙は、御使の手から、聖徒たちの祈と共に神のみまえに立ちのぼった。**8:5** 御使はその香炉をとり、これに祭壇の火を満たして、地に投げつけ

た。すると、多くの雷鳴と、もろもろの声と、いなずまと、地震とが起った。（黙示録 8：1－5）

### 7つのラッパ：8:2－9:21

7つのラッパは、天の王座から地上に降る神のさばきが、一層激しさを増すことを表しています。それらは、創造された秩序の様々な側面に関する 1/3 のさばきを表しています。最初の4つのラッパのさばきが自然の秩序（大地、海、水、空）に下されるのは、神のあわれみによる行為です。人類が神の御前での自分の立ち位置を見直し、再考する時間を持てるようにしてくださっています。

#### 第一のラッパ：地上の 1/3 が焼ける

私たちは、山火事によって、広大な土地が焼けつくされた映像を見たことがあります。火山噴火によって荒廃した映像や、原子爆発の熱によって崩壊された都市の映像を見たことがあります。地球の 1/3 がこのような激しい荒廃を経験することを想像してみてください。これは段階的な「地球温暖化」のようなものではなく、天から雹と火が降る嵐で、地球規模の裁きです。

**8:6** そこで、七つのラッパを持っている七人の御使が、それを吹く用意をした。**8:7** 第一の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、血のまじった雹と火とがあらわれて、地上に降って

きた。そして、地の三分の一が焼け、木の三分の一が焼け、また、すべての青草も焼けてしまった。（黙示録8：6，7）

### 第二のラッパ：海の1/3が破壊される

天から海に投げ込まれる火山のイメージは、彗星や小惑星が地球の大気圏に衝突し、海を破壊することを想像することができます。しかし、繰り返しになります、これらは「自然災害」ではなく、突然の迅速な神の裁きです。

**8:8** 第二の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、火の燃えさかっている大きな山のようなものが、海に投げ込まれた。そして、海の三分の一は血となり、**8:9** 海の中の造られた生き物の三分の一は死に、舟の三分の一がこわされてしまった。（黙示録8：8，9）

### 第3のラッパ：水源の1/3が破壊される

「苦よもぎ」は、苦悩と悲しみの同義語です（哀歌3:15,19）。神が、ご好意のしるしとして、苦い水を甘くすることがお出来になるのと同様に（出エジプト記15:22-25）、神のさばきのしるしとして、甘い水を苦くすることもお出来になります（何年も前に、カナダ政府が、水源の1/3が酸性雨によって台無しにされるであろうと推定した記事を読んだことがあります。）。

**8:10** 第三の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、たいまつのように燃えている大きな星が、空から落ちてきた。そし

てそれは、川の三分の一とその水源との上に落ちた。**8:11** この星の名は「苦よもぎ」と言い、水の三分の一が「苦よもぎ」のように苦くなった。水が苦くなったので、そのために多くの人が死んだ。（黙示録8：10，11）

### 第4のラッパ：天体の1/3が失われた

旧約聖書の冒頭で、神は暗闇に光をもたらされました。そして、神の物語が終わろうとしている、そのとき、神は光を圧倒する闇をもたらされます。イエス様が人類の罪に対する神の裁きを背負われて、十字架につけられたとき、濃厚な闇が地を覆いました。将来、この闇は、イエス様の十字架上の御業を受け入れることを拒む結果、再び地上を覆うこととなります。

**8:12** 第四の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、太陽の三分の一と、月の三分の一と、星の三分の一とが打たれて、これらのものの三分の一は暗くなり、昼の三分の一は明るくなくなり、夜も同じようになった。（黙示録8：12）

### 最後の3つのラッパに関する、 3つの「災い」の警告

7つの封印が2つに分類（馬に乗った4人の人物たちと3つの最後の封印）されたことを思い出しましょう。7つのラッパも同様に、自然に関する4つの裁きと、人類に降りかかる3つの最後の

「災い」の2つに分類されます。天使の様な御使いは、残りのラッパの裁きが厳しいものになるという警告を地に鳴らします。

**8:13** また、わたしが見ていると、一羽のわしが中空を飛び、大きな声でこう言うのを聞いた、「ああ、わざわざいだ、わざわざいだ、地に住む人々は、わざわざいだ。なお三人の御使がラッパを吹き鳴らそうとしている」。(黙示録8：13)

#### 第5のラッパ：

##### アポルオン (破壊者)、悪魔のような拷問者を解放

人類と自然の源に降りるさばきとは対照的に、第5のラッパ (第一の災いのさばき) は、悪霊の存在の霊的世界から発せられる災いを描写しています。アポルオン (またはアバドン) は「破壊者」を意味します。彼はここでは「底知れぬ穴の天使」と呼ばれ、底知れぬ穴に住む悪霊のような生き物の「王」と呼ばれています。これらの恐ろしいイナゴのような生き物が地に放たれ、人類を5ヶ月間苦しめます。彼らは額に神の印を持っていない人だけを苦しめることが許されています (注：黙7:1-3)。これらの悪霊のような恐ろしい形状をした存在が人間の目に見える存在であるとしたら、人々は、まるでSFホラー映画の中に生きてるように感じるに違いありません。彼らが目に見えない存在の場合は、人を殺さずに人類を不自由

にする謎の疫病やウイルスの様なものである可能性もあります。

**9:1** 第五の御使が、ラッパを吹き鳴らした。するとわたしは、一つの星が天から地に落ちて来るのを見た。この星に、底知れぬ所の穴を開くかぎが与えられた。**9:2** そして、この底知れぬ所の穴が開かれた。すると、その穴から煙が大きな炉の煙のように立ちのぼり、その穴の煙で、太陽も空気も暗くなった。**9:3** その煙の中から、いなごが地上に出てきたが、地のさそりが持っているような力が、彼らに与えられた。**9:4** 彼らは、地の草やすべての青草、またすべての木をそこなってはならないが、額に神の印がない人たちには害を加えてもよいと、言い渡された。**9:5** 彼らは、人間を殺すことはしないで、五か月のあいだ苦しめることだけが許された。彼らの与える苦痛は、人がさそりにさされる時のような苦痛であった。**9:6** その時には、人々は死を求めても与えられず、死にたいと願っても、死は逃げて行くのである。**9:7** これらのいなごは、出陣の用意のととのえられた馬によく似ており、その頭には金の冠のようなものをつけ、その顔は人間の顔のようであり、**9:8** また、そのかみの毛は女のかみのようであり、その歯はししの歯のようであった。**9:9** また、鉄の胸当のような胸当をつけており、その羽の音は、馬に引かれて戦場に急ぐ多くの戦車の響きのようであった。**9:10** その上、さそりのような尾と針とを持っている。その尾には、五か月のあいだ人間を

そこなう力がある。9:11 彼らは、底知れぬ所の使を王にいただいており、その名をヘブル語でアバドンと言い、ギリシヤ語ではアポロンと言う。9:12 第一のわざわいは、過ぎ去った。見よ、この後、なお二つのわざわいが来る。

(黙示録9：1－12)

### 第6のラッパ：2億の軍勢、 生き残った人類の1/3を殺す

ここで、前の箇所、人類に解き放たれた悪魔の力の延長と見る人たちがいます。また一部の人たちは、文字通り2億人の兵士の軍勢と見ます。さらに、ある人たちは、人類と戦争をするために送られた、神の悪霊の軍勢と見る人もいます。この破壊者の軍勢が何であれ、「神のみまえにある金の祭壇」から裁きが流れる結果になります(黙9:13)。大ユウフラテス川(黙9:14)は、世界を支配しようとする帝国の多くの主要な攻撃の歴史の舞台となった場所です。この裁きを下す「4人の天使」への言及は、黙示録第7章1-3節で言及されている4人の天使と同じかもしれません。

9:13 第六の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、一つの声が、神のみまえにある金の祭壇の四つの角から出て、9:14 ラッパを持っている第六の御使にこう呼びかけるのを、わたしは聞いた。「大ユウフラテ川のほとりにつながれている四人の御使を、解いてやれ」。9:15 すると、その時、その日、

その月、その年に備えておかれた四人の御使が、人間の三分の一を殺すために、解き放たれた。9:16 騎兵隊の数は二億であった。わたしはその数を聞いた。9:17 そして、まぼろしの中で、それらの馬とそれに乗っている者たちとを見ると、乗っている者たちは、火の色と青玉色と硫黄の色の胸当をつけていた。そして、それらの馬の頭はししの頭のようにあって、その口から火と煙と硫黄とが、出ていた。9:18 この三つの災害、すなわち、彼らの口から出て来る火と煙と硫黄とによって、人間の三分の一は殺されてしまった。9:19 馬の力はその口と尾とにある。その尾はへびに似ていて、それに頭があり、その頭で人に害を加えるのである。9:20 これらの災害で殺されずに残った人々は、自分の手で造ったものについて、悔い改めようとせず、また悪霊のたぐいや、金、銀、銅、石、木で造られ、見ることも聞くことも歩くこともできない偶像を礼拝して、やめようとしなかった。9:21 また、彼らは、その犯した殺人や、まじないや、不品行や、盗みを悔い改めようとしなかった。(黙示録9：13－21)

ここでの結末に注意してください。このような最も恐るべき警告を受けつつも、なお生き残った人たちは、頑なに、悔い改めて神に立ち返ることを拒否し続けます。世界の指導者らからよく耳にする「精神で打ち勝てないものはない」という誇り高い言葉が思い浮かびます。ヨハネの黙示録から、人類は最後まで同じテーマを繰り返し唱えているように見えま

す。イスラエルがバビロン捕囚で衰弱していた紀元前 500 年の預言者エレミヤの言葉を思い出してください。「**5:3** 主よ、あなたの目は、真実を顧みられるではありませんか。あなたが彼らを打たれても、痛みを覚えず、彼らを滅ぼされても、懲しめを受けることを拒み、その顔を岩よりも堅くして、悔い改めることを拒みました（エレミヤ 5:3）」。

#### 幕あい：強い御使いと小さな巻物

第 6 と第 7 のラッパの間に、約 2 章（黙 11:15 まで）の小休止があります。7 つ目のラッパが私たちに最高潮へと導きます：**10:7** 第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される（黙示録 10:7）。第 10 章と第 11 章では、ヨハネが終末期に、神がその民をどのように用いられて、メッセージを宣べ伝えておられるかを見ます。神のみ言は、このような最後のさばきの只中であっても、国々へと伝えられています。イエスは言われました。：**24:14** そしてこの御国の福音は、すべての民に対してあかしをするために、全世界に宣べ伝えられるであろう。そしてそれから最後が来るのである（マタイ 24：14）。

10 章の冒頭で、ヨハネは、「もう一度、多くの民族、国民、国語、王たちについて、預言」するために、食べるように命じられた小さな巻物が与えられています（黙 10:8-11）。ヨハ

ネは、7 回の雷鳴を聞きましたが、これは、別の一連の神の裁きを表している可能性があります。しかし、これらは封印されているため、ヨハネは、その意味を明らかにすることができませんでした。（聖書の預言には、常に謎のままである事柄がいくつかあります。）

**10:1** わたしは、もうひとりの強い御使が、雲に包まれて、天から降りて来るのを見た。その頭に、にじをいただき、その顔は太陽のようで、その足は火の柱のようであった。**10:2** 彼は、開かれた小さな巻物を手に持っていた。そして、右足を海の上に、左足を地の上に踏みおろして、**10:3** ししがほえるように大声で叫んだ。彼が叫ぶと、七つの雷がおのおのその声を発した。**10:4** 七つの雷が声を発した時、わたしはそれを書きとめようとした。すると、天から声があつて、「七つの雷の語ったことを封印せよ。それを書きとめるな」と言うのを聞いた。**10:5** それから、海と地の上に立っているのをわたしが見たあの御使は、天にむけて右手を上げ、**10:6** 天とその中にあるもの、地とその中にあるもの、海とその中にあるものを造り、世々限りなく生きておられるかたをさして誓った、「もう時がない。**10:7** 第七の御使が吹き鳴らすラッパの音がする時には、神がその僕、預言者たちにお告げになったとおり、神の奥義は成就される」。（黙示録 10：1－7）

強い御使いは、7 番目のラッパが鳴ったとき、「神の神秘」が「成就した」ことを神の前で誓います。主の日と神の王国

の地上への到来に関して、神が以前の預言者たちに与えられたすべてのメッセージは、最終的に成就しようとしています。悪は一掃され、神の義の王国が現実となります。

ヨハネは、御使いの手から小さな巻物を取り、それを食べるように指示され、その通りにしました（参照：2:8-3:3, エゼキエルの預言者への召しの物語に似ている）。巻物は、神のみ言であるので、最初は口に甘いが、その中身（厳しい裁き）のために苦くなります。ヨハネが飲み込んだ、この小さな巻物の中身は、今やヨハネの「多くの民族、国民、国語、王たち」に関する預言となっています。言い換えれば、ヨハネの黙示録の残りの部分は、ヨハネに明らかにされた結果、ヨハネは、これらの未来のことを世に明らかにすることが可能となったのです。

**10:8** すると、前に天から聞いてきた声が、またわたしに語って言った、「さあ行って、海と地との上に立っている御使の手に開かれている巻物を、受け取りなさい」。 **10:9** そこで、わたしはその御使のもとに行って、「その小さな巻物を下さい」と言った。すると、彼は言った、「取って、それを食べてしまいなさい。あなたの腹には苦いが、口には蜜のように甘い」。 **10:10** わたしは御使の手からその小さな巻物を受け取って食べてしまった。すると、わたしの口には蜜のように甘かったが、それを食べたら、腹が苦くなった。 **10:11** その時、「あなたは、もう一度、多くの民族、国民、国語、王たちについて預言せねばならない」と言う声がした。（10：8－11）

黙示録第10章7節は、7つ目のラッパが、私たちに「終わり」をもたらすと告げているので、理論的には、黙示録第19章（キリストの再臨）を7つ目のラッパの直後に置くことが可能です。しかし、ヨハネはここで、神のご計画を阻止し、偽の王国を地上に確立しようとするサタンの最終的な試みを中心に展開する、神が明らかにしたいと願っておられる追加の情報を提供します（これは、サタンの最初からの計画でした）。この追加資料は、時代の初めから猛威を振るい、これらの最後の大きな戦いで最高潮に達する、神とサタンの間の霊的な戦いについての深い洞察を私たちに与えてくれます。

### 幕あい：二人の特別な証人

ヨハネが飲み込んだ、小さな巻物から得た最初の洞察は、エルサレムにいる、神の2人の証人に関するものです。ヨハネは、エルサレムの神の神殿を測るように言われました。ヨハネが黙示録を執筆している時点では、神殿は建っていませんでした（ローマによって紀元70年に破壊されました）。ヨハネは、エルサレムの未来の神殿を見ていたのでしょうか、それとも、これは何か霊的なものを表す比喩なのでしょうか？私たちの解釈の多くは、イスラエルが国家として、終わりの時に、どのように位置するかについての個々の見方にかかっています。

（黙示録第7章1-8節で、144,000人の「ユダヤ人」証人における同じ解釈の問題が見られました。また、イスラエルが明らかに物語の中心となる第12章でも再び見られます。）神は、終末計画の中に、イスラエル国家のための

具体的なご計画を持っておられると、私は思います。旧約聖書の預言が字義通りに理解された場合、そのようなイスラエル国家のための将来的計画は欠かせません。ローマ人への手紙第 11 章のような重要な箇所は、そのようなイスラエル国家のための将来のご計画が非常に明確に記されています。したがって、イスラエル（または「神殿」や「都」などのイスラエルに関連するもの）に言及する啓示は、神が、そこで働くことへの字義通りの言及として読むことができます。以下の箇所では、町が未信者に踏みにじられている傍ら、特別なユダヤ人の 2 人の証人（その奇跡的な力によって、モーセやエリヤのような人物に描かれています）が、大患難時代の前半、エルサレムと神殿で、3 年半、神の代理人として語っている様子が記されています。（参照：テサロニケ 2:4; マタイ 24:15, 16, 新約聖書の箇所からも、終末期に、ユダヤ教の神殿が存在している様に解釈できます。）

**11:1** それから、わたしはつえのような測りざおを与えられて、こう命じられた、「さあ立って、神の聖所と祭壇と、そこで礼拝している人々とを、測りなさい。 **11:2** 聖所の外の庭はそのまましておきなさい。それを測ってはならない。そこは異邦人に与えられた所だから。彼らは、四十二か月の間この聖なる都を踏みにじるであろう。 **11:3** そしてわたしは、わたしのふたりの証人に、荒布を着て、千二百六十日のあいだ預言することを許そう」。 **11:4** 彼らは、全地の主のみまえに立っている二本のオリブの木、また、二つの燭台である。 **11:5** もし彼らに害を加えようとする者があれば、彼らの

口から火が出て、その敵を滅ぼすであろう。もし彼らに害を加えようとする者があれば、その者はこのように殺されねばならない。 **11:6** 預言をしている期間、彼らは、天を閉じて雨を降らせないようにする力を持っている。さらにまた、水を血に変え、何度でも思うままに、あらゆる災害で地を打つ力を持っている。（黙示録 11:1-6）

再び、解釈上の疑問が生じますが、この二人の証人は、2 つのグループの人々（つまり、ユダヤ人と異邦人の証人、イスラエルと教会、または単に教会）の象徴であるのか、それとも、これらは字義通り、3 年半の「スーパー証人」となるために、神によって権限が与えられた人たちか。私は、7 年間の患難時代の最初の 3 年半に、キリストについて大胆な証言をする 2 人の個人（生き返らされたモーセとエリヤである可能性もある。）であると理解しています。彼らの証言は、第 7 章で、神によって封印された 144,000 人のユダヤ人の証人と関連しています。彼らの特別な宣教活動は、サタンとその反キリストによって終わりを告げます（おそらく 7 年間の艱難時代の只中に）。

**11:7** そして、彼らがあかしの終わると、底知れぬ所からのぼって来る獣が、彼らと戦って打ち勝ち、彼らを殺す。 **11:8** 彼らの死体はソドムや、エジプトにたとえられている大いなる都の大通りにさらされる。彼らの主も、この都で十字架につけられたのである。 **11:9** いろいろな民族、部族、国語、国民に属する人々が、三日半の間、彼らの死体をなが

めるが、その死体を墓に納めることは許さない。11:10 地に住む人々は、彼らのことで喜び楽しみ、互に贈り物をしあう。このふたりの預言者は、地に住む者たちを悩ましたからである。（黙示録 11：7－10）

エルサレムの通りに横たわる 2 人の証人の死体を三日半の間、世界中の人たちが一斉に見ることができるという光景は、最近までは想像し難い状況でしたが、今日は、私たちがあらゆる場所で起こる出来事につながっているのです。全世界が見られないことの方が想像し難くなってきました。しかし、最も衝撃的なのは、彼らの死に対する世界の反応です。世界は、彼らが沈黙させられたことを喜び、その死は、まるで祝い事の様に、パーティーを開き、贈り物を交わします。しかし、三日半が経ち、神は、世の祝い事を中断させられ、世が見ている中で、突然二人の証人にいのちの息を吹き込まれ死からよみがえらせて雲に乗せて天に上げられます。

11:11 三日半の後、いのちの息が、神から出て彼らの中にはいり、そして、彼らが立ち上がったので、それを見た人々は非常に恐怖に襲われた。11:12 その時、天から大きな声がして、「ここに上ってきなさい」と言うのを、彼らは聞いた。そして、彼らは雲に乗って天に上った。彼らの敵はそれを見た。11:13 この時、大地震が起って、都の十分の一は倒れ、その地震で七千人が死に、生き残った人々は驚き恐れて、天の

神に栄光を帰した。11:14 第二のわざわいは、過ぎ去った。見よ、第三のわざわいがすぐに来る。（黙示録 11：11－14）

これは、患難時代のある時点で、神の民全員に起こる「携挙」に似た出来事です（1テサロニケ 4:17; 黙示録 14:14-16）。二人の証人の昇天に続いて起こった突然の大地震は、エルサレムで 7,000 人の命を奪ったとされています。私たちが 5 年間住んだことのあるフィリピンのバギオ市で地震が発生し、3,000 人の命が一瞬で失われました。ヨハネの説明は、非常に明確です！

上の箇所最後の行は重要です：「11:13 この時、大地震が起って、都の十分の一は倒れ、その地震で七千人が死に、生き残った人々は驚き恐れて、天の神に栄光を帰した（黙示録 11:13）」。ここは黙示録の中で、地上の一部の人々が終末期の神の裁きに前向きに応答する唯一の箇所です。ここまでの第二の「災い」（第 6 のラッパ）が終わりました。

#### 第 7 のラッパ：

#### キリストが世界を支配される再臨

万物の終焉とキリストの地上における支配が、第 7 のラッパとともに到来するので、少し前にも述べたように、黙示録第 19 章（キリストの再臨）をここに置くことが可能と言えます。



11:15 第七の御使が、ラッパを吹き鳴らした。すると、大きな声々が天に起って言った、「この世の国は、われらの主とそのキリストとの国となった。主は世々限りなく支配なさるであらう」。11:16 そして、神のみまえで座についている二十四人の長老は、ひれ伏し、神を拝して言った、11:17 「今いまし、昔いませる、全能者にして主なる神よ。大いなる御力をふるって支配なさったことを、感謝します。11:18 諸国民は怒り狂いましたが、あなたも怒りをあらわされました。そして、死人をさばき、あなたの僕なる預言者、聖徒、小さき者も、大いなる者も、すべて御名をおそれる者たちに報いを与え、また、地を滅ぼす者どもを滅ぼして下さる時がきました」。11:19 そして、天にある神の聖所が開けて、聖所の中に契約の箱が見えた。また、いなずまと、もろもろの声と、雷鳴と、地震とが起り、大粒の雹が降った。

(黙示録 11 : 15 - 19)

この礼拝の場面は、7つの封印の巻物の中身を地上で解き放つ準備をしている間、24人の長老たちが神を拝み、賛美していた第5章の場面を支えます。これでイエス様を礼拝／賛美が成就します。裁きが下され、ここで、神による義の支配が地上で始まる時が到来しました。

ヨハネが「小さな巻物」を食べて、もっと多くの預言をすることがあると言われたことを思い出しましょう。第12章から第18章では、終末時代の出来事の魅力的で目を見張るよう

な舞台裏を紹介します。特に、サタンが神に反抗し、地上に構築する悪の広大な体制に焦点を当てていきます。そして、その偽王国を神は破壊されます。

### ディスカッションの質問

1. これまでの黙示録／説教ノートを読んで、終末の出来事の全体的な物語について最も印象に残っていることは何ですか？それはあなたに何を気づかせましたか？
2. 最終的に世に裁きをもたらすことに、神の子羊、イエスが関与されることが適切なのはなぜですか？これは、イエスの初臨の際の神の愛と恵みの源であることとどのように適合しますか？
3. 全体として、終末論は、あなたにどのような影響を与えますか？あなたは、その話題を避けられますか？混乱されていますか？あなたを励ましますか？興味をそそられますか？
4. この本（黙1:3）のみ言に耳を傾ける人々には特別な祝福が約束されているのはなぜだと思いますか？
5. 重要：黙示録のような本に基づいて過度に具体的な予測を立てようとする聖書預言の教師を避けておられますか？